

# 天幕・横幕用生地に関する説明

〒664-0012 兵庫県伊丹市緑ヶ丘2-118-13

野坂商事有限会社

tel. 072-783-0360 fax. 050-1327-7877

## 1) 国内での一般的呼称と製法及び特徴の概要

ターポリンもポリエステル帆布もポリエステル系の織物に塩ビをコーティングしたもの。

違いは前者が長繊維織物の両面に塩ビ膜を張り合わせラミネートしたのに対し、

後者は短繊維織物に塩ビ樹脂(液に漬け込み)を含浸したもの。

前者の欠点は織物生地面と塩ビ層の剥離し易さで、繰り返しハタメキや溶着部に引張り力が掛かった時溶着面より先に層間で剥離を起こし易い。

特に天幕内面周囲のハトメ付テープが外れてしまうケースが多い。

また土間を引きずると、表面のラミネート皮膜がたちまち磨耗し中の繊維が毛羽立つ。

一方利点は薄くて軽い。

対して後者には繊維と塩ビの間に明確な層間がなく上述の欠点はないが、短繊維を絡めた織物ゆえ、縦横長繊維での格子状織物に比べ引き裂き強度が弱い。

また製法上と熱溶着を含めた性能確保上相応の厚みを要し嵩張り重い。

## 2) 当社使用生地の呼称と製法及び特徴の概要

「増強ターポリン」と「長繊維ポリエステル帆布」2種類について以下に説明。

何れも製法はポリエステル長繊維糸で織った生地両面に塩ビ溶液を塗り込み、

表面をけさいだ(刃物でそぎ落とし平滑にした)もの。

前項で説明の層間剥離の難易度に関して本製法は前項2者の中間に位置するが、

ポリエステル帆布同様剥離強度は何れにせよ溶着部以上である為問題にならない。

本項2種商品の基布は同じゆえ機械的性質もほぼ同じだが呼称を分けた理由は、前者は薄くて軽い前項前者に因み、後者は厚くて重いが両面共滑らかな表面仕上げでウエルダー箇所も

塩ビ層が厚い分溶着部の剥離強度は後者が勝ることに因み斯様に命名。

## 3) 性能比較表(概数)

呼称	呼号	厚さ mm	重さ g/m <sup>2</sup>	伸度 %	抗張力 kgf/3cm	引裂強度 kgf	剥離強度 kgf/3cm
一般的国産メーカー品							
ターポリン	1類	0.5	500~600	25	100	15	2~3
ターポリン	2類	0.32	300~400	25	55	10.5	2~3
ポリエステル帆布	6号	0.57	450~500	30	130	10	基本的に 層間剥離なく 溶着部強度 で決まる。
ポリエステル帆布	7号	0.42	400~450	30	100	7.5	
当社製品							
増強ターポリン(略称T)		0.32	390	23	100	18	* 4.7
長繊維ポリエステル帆布(略称P)		0.4	500	18	100	18	* 5.9

\* 層間剥離困難で生地自体の試験不能にて溶着部強度試験値を表示

## 防カビ性能

生地を濡れティッシュで包み、PE袋に入れて多湿室内に1年間保管実験結果



カビだらけ  
ティッシュから  
出ていた  
部分に  
カビ移り



指でこすり水洗  
すれば元通りに

一般ターポリンの  
様に層間に  
カビが入り込む  
事がない。

以上